

# 宇喜多家史談会会報

第 98 号  
令和 8 年 4 月 25 日

宇喜多家史談会  
〒七〇〇八二六  
岡山市北区磨屋町六一二八  
光珍寺気付

【令和八年度総会会長挨拶(代理者)】

## 宇喜多家史談会の皆様へ

宇喜多家史談会 会長 山下 貴 司

令和八年度 宇喜多家史談会の総会が開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

長きにわたり、宇喜多家ゆかりの歴史・文化の継承に尽力されてきた皆さまが、本日こうして一堂に会されましたことに、心より敬意を表します。

宇喜多家の歩みは、戦国の激動を生き抜いた武将たちの物語であると同時に、岡山という地域の礎を築いた先人たちの叡智と努力の結晶でもあります。宇喜多直家公の卓越した戦略眼、秀家公の若き情熱と理想、そしてその後の数奇な運命は、今なお多くの人々を惹きつけ、私たちに歴史の奥深さと人間の強さを教えてくれます。

本会が長年にわたり続いてきたのは、単に史実を語り継ぐだけでなく、地域の文化を守り、未来へとつなぐという強い使命感を、会員お一人おひとりが共有してこられたからにほかなりません。歴史を掘りおこし、継承していくという地道でありながらも極めて重要な取り組みが積み重ねられてきました。その努力が、岡山の歴史文化の豊かさを支える大きな力となっています。

近年、歴史研究や地域文化の継承を取り巻く環境は大きく変化しています。デジタル技術の進展により、史料の保存・公開の方法は多様化し、歴史への関心の持ち方も世代により変わりつつあります。しかし、どれほど時代が移り変わろうとも、歴史を学び、語り継ぐ

営みの根底にあるのは、人と人とのつながりであり、地域への誇りであり、先人への敬意と感謝です。

宇喜多家史談会がこれまで築いてこられた知の蓄積と、会員の皆さまの情熱は、これからの時代においても必ずや大きな価値を持ち続けることと確信しております。本日の総会が、さらなる発展への新たな一歩となり、宇喜多家の歴史がより多くの人々に親しまれ、未来へと受け継がれていく契機となることを心より願っております。

結びに、本会のみならずのご発展と、会員の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

皆さまとともに歩みを重ねていければ幸いです。

令和八年三月十四日

【令和八年度「戦国の清星 宇喜多直家フェス」講演

## お城と鉄道の景色

会員 小野田 伸

本稿は、令和八年二月十一日に柴岡山光珍寺で行われた対談(内池英樹・岡山県立博物館副館長と小野田)で、小野田が話した内容の一部をもとに、新たに書き加えたものです。

岡山城の見える景色を語るとき、旭川とともにある景観は、お城の成り立ちから見ても欠かすことが出来ないでしょう。ここでは、さらに鉄道を加えた写真を見ていただきましょう。

一つ目の写真(写真一)は、旭川を渡る新幹線の鉄橋付近から(つまり、新幹線目線に近い位置で)見た岡山城です。望遠レンズで撮っているのが実際よりはアップに見えます。

しかし昨今、背の高い建物が増え、岡山城が見える範囲は急速に